うむい小
平成20年　春号

新春は初詣でから

正月二十四万人！

平成二十年お正月も大勢の人で賑わいました。大みそか午後九時除夜祭斎行、続いて古神札焼納祭・大祓式が行われました。

一年の罪けがれを祓い清め新しい年を迎える準備をしました。午前〇時歳旦祭斎行、役員を始め崇敬者が参列。新年最初の祭典が行われました。

いまかいまかと列を成した参列者はお賽銭を入れて手を合わせて願い事をしていました。

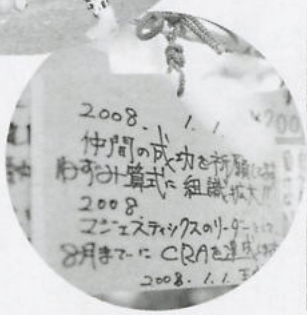
元旦九時にはジーマグループの新年特別祈祷が行われ引き続き御奉納頂いた御神酒の鏡わりが行われ参拝者に振舞われました。

二日の夜は沖縄国際大学の琉球風車によるエイサーの奉納があり一層賑わいをみせ、参拝者はお守りや縁起物、福笹を手に勇壮な踊りに見入っていました。二十四万人もの方がお詣り下さいました。

ジーマグループ奉納の鏡わり

沖縄国際大学の琉球風車によるエイサー

おみくじを結ぶ参拝者



祈願絵馬

お守りを選ぶ参拝者「わたしの干支は何だっけ」

お参りの作法は、2礼2拍手1礼

社務日誌抄

（平成十九年九月より平成二十年三月まで）

9月

・4日　明治神宮 高阪弘明様大仲正則様正式参拝
・8日　世界日報社　鴨野　守様
　まちづくり振興会 錦古里正一様正式参拝
・15日　**敬老祭**
・15日　識名宮例大祭参列
・23日　**秋分祭**
・23日　修養団捧誠会　木島一郎様ほか40名
　正式参拝及び 神石祭奉仕
・24日　兵庫県遺族会37名正式参拝
・24日　東京都遺族連合会40名正式参拝
・25日　普天満宮例大祭参列
・25日　島守の塔　のじぎくの塔参列
・26日　第31回沖縄の産業まつり成功祈願祭
・26日　(財)日本学協会　永江太郎様ほか1名正式参拝
・26日　宮城県遺族会自由参拝

10月

・10日　鎮魂なぐやけの碑慰霊祭参列
・17日　**神嘗祭遥拝式**
・17日　波上宮神嘗祭当日祭・奉賛会秋祭参列
・19日　浮島神社例大祭参列
・20日　沖縄神社例大祭参列
・21日　安里八幡宮例大祭参列
・22日　**國誠流詩吟連盟荒國誠様ほか72名正式参拝**

ご神前に詩吟を奉納

沖縄祖国復帰35年を奉祝して日本を始めアメリカ・カナダ・トリポリなどの会員が参集し、ご神前に詩吟の奉納を頂きました。

・22日　**宵宮祭**
・23日　**第49回秋季例大祭斎行**
・23日　群馬県遺族会35名正式参拝
・24日　群馬の塔慰霊祭参列

11月

・1日　広島県遺族会25名正式参拝
・3日　**明治節祭遥拝式**
・4日　因伯の塔慰霊祭奉仕
・5日　山口県遺族連盟33名正式参拝
・6日　防長英霊の塔慰霊祭参列
・7日　徳島県遺族会28名正式参拝
・7日　佐賀県遺族会90名　並びに
　佐賀護國神社宮司宮田豊様正式参拝
・8日　静岡県静霊奉賛会33名正式参拝
・8日　静岡の塔参列
・9日　愛媛県西条市遺族会75名正式参拝
・9日　熊本県遺族連合会32名正式参拝
・10日　長崎県遺族連合会64名正式参拝
・10日　長崎の碑慰霊祭参列
・10日　世持神社例大祭参列
・10日　住吉神社例大祭奉仕
・11日　青森県遺族連合会38名正式参拝
・11日　岩手県遺族連合会29名正式参拝
・11日　みちのくの塔慰霊祭参列
・13日　福島県遺族会33名正式参拝
・13日　香川県遺族連合会32名正式参拝
・13日　北海道連合遺族会41名正式参拝
・14日　ふくしまの塔慰霊祭奉仕
・14日　大分県遺族連合会35名並びに
　大分県護國神社宮司小野日隆様正式参拝
・14日　新潟県慰霊巡拝団、並びに新潟県護國
　神社宮司轡田勝彌様御一行15名正式参拝
・15日　富山県南方戦没者沖縄慰霊塔奉賛会32名
　正式参拝
・15日　奈良県遺族会31名正式参拝
・15日　高知県遺族会17日正式参拝
・16日　土佐の塔慰霊祭奉仕
・18日　ひむかいの塔慰霊祭参列
・18日　沖縄埼玉の塔慰霊巡拝、
　埼玉の塔管理委員会68名正式参拝
・19日　茨城県遺族連合会50名正式参拝
・21日　岐阜県遺族会40名正式参拝
・22日　千葉県遺族会46名正式参拝
・23日　**新嘗祭**
・23日　神奈川県遺族会107名正式参拝
・25日　社団法人日本詩吟学院岳風会城南吟詠会
　湘南支部吟鈴会28名正式参拝
・26日　熊本県中央地区神道青年会6名正式参拝
・28日　岡山県遺族連盟56名正式参拝
・30日　和歌山県遺族連合会23名正式参拝

12月

・4日　日本遺族会沖縄慰霊友好親善訪問団31名正式参拝
・6日　雲八幡宮宮司秋永勝彦様ご夫妻正式参拝
・20日　沖縄県戦没者遺族大会出席
・23日　**天長祭**

午前11時より本殿にて天長祭が斎行されました。祭典では先ず国歌斉唱、宮司が祝詞を奏上申し上げ巫女舞を奉奏代表役員を始め崇敬者の参列の下いとも厳粛にとり進められました。

掛軸の歌は天皇陛下の琉歌で
「広がゆる畑　立ちゅる城山
　肝のしぬばらぬ　戦世のこと」
書はうるま市在住　新里明美様
奉納は那覇市在住　香村安紀様

祭典終了後は伊藤宮司による「天皇誕生日を祝す」の講話があり今上陛下の琉歌を交えながら陛下の沖縄に対する想いを話されました。また、その後は直会にて参加された方々と祝賀ムードに懇親が深まりました。

・26日　神符守札遷霊祭
　奉製奉告祭
・31日　大祓式
　古神札焼納祭
　除夜祭

1月

・1日　歳旦祭
・3日　元始祭
・14日　成人祭

「鬼は外～福は内～」

2月

・3日　節分祭
・7日　JYMA（旧日本青年遺骨収集団）
　男女14名正式参拝

この団体は平成16年頃から沖縄で遺骨収集を始めていて、毎年作業の前にメンバーの安全と大きな成果を齎せることが出来るようにと当社を訪れます。境内には記念植樹も奉納されています。一週間の滞在をして、数体の遺骨を収集し活動は無事に終えたようです。お疲れ様でした。

拝殿前にて記念撮影

・8日　日本和裁士会沖縄県支部針供養祭奉仕

日本和裁士会沖縄支部約60名（代表安里克子様）が訪れ、今まで使ってきた針や折れた針をこんにゃくに刺し神前にお供えし感謝と発展を祈願しました。

たくさんの針は境内の「針の碑」の塚に埋められました。報道陣も多く詰めかけ盛大に行われました。

お祓いをうける和服姿の参列者

・11日　紀元祭

皇紀二六六八年の紀元祭が神社代表役員、遺族会会長、崇敬者の方々、さらに今年は中学生の男女10名の参列もあり晴天のもと斎行されました。

午前10時伊藤宮司以下祭員が参進、先ず始めに参列者全員で国歌「君が代」を斉唱、続いて皇居並びに橿原神宮を遥拝しました。宮司が祝詞を奏上、神楽「浦安の舞」を奉奏し祭典に引き続き拝殿前にて航空自衛隊那覇基地太鼓部「鼓風」による小倉祇園太鼓の奉納演奏、宮司のミニ講話を拝聴し盛会のうちに平成20年の紀元節を終了しました。

太鼓の奉納をする「鼓風」の皆様

神楽「浦安の舞」

・16日　桑明会17名正式参拝
・17日　祈年祭

午前9時祭典が斎行され神前に米、麦、あわ、きび、豆の五穀が備えられ一年の豊作を祈念しました。

・19日　山形の塔慰霊団57名正式参拝
・20日　山形の塔慰霊祭参列
・21日　札幌市連合遺族会17名正式参拝
・22日　修養団　坂本大生様ほか一名正式参拝
・24日　惠比須神社宮司嬉野通義様ご夫妻
　正式参拝

3月

・5日　北海道沖縄会22名正式参拝
・6日　北霊碑慰霊祭参列
・20日　春分祭

ホームページ開設しました。
是非ご覧下さい。
http://www.okinawa-gokoku.jp/

トピックス

合格感謝で清掃奉仕

三月十四日高校受験合格発表の日、合格した学生が神社にお礼参りに訪れました。男子三名女子五名は参拝の後、「清掃させて下さい」と申し出て、ほうきを手にし境内の掃き掃除を奉仕してくれました。今時には珍しく自発的に奉仕をする中学生の姿は心温まる光景でした。かれらにとっても忘れられない記念日になってくれるといいですね。ありがとうございました。

セスナ機をお祓い ジュゴンの生態調査機

十月十三日いであ株式会社のセスナ機のお祓いが那覇空港内で行われました。

このセスナ機は海に住む人魚といわれるジュゴンの生態を調べるためのもの、沖縄のサンゴが消滅しかけている昨今、いつまでも沖縄の海にジュゴンが住める環境を守っていけるようにと、業務の安全を祈念しました。

ガールスカウト東京都第168団30周年記念キャンプIN沖縄

四月一日練馬区の石神井氷川神社内にあるガールスカウト団委員長栗原紀子様ほか三十七名が訪れ正式参拝をしました。

参拝後境内にて三十周年キャンプの開会式が行われ沖縄の爽やかな太陽のもと子供達は二泊三日のキャンプに期待に胸をふくらませていました。

青少年の健全育成に金一封

奥武山公園内のボクシング場で青少年のボクシング指導をしている当神社の渡辺尚武禰宜に那覇西高校より同校の生徒育成指導に寄与したとして、その功績に金一封が贈られました。

三協会から神社に感謝状

感謝状

豊見城地区交通安全協会、同防犯協会、同少年補導協議会の三協会の創立五十周年記念にあたり当神社が事業の推進に深い理解と関心を示し、組織の育成発展に貢献したとして感謝状を頂戴しました。

ぼうさん＆かんぬし 対談

本日はせっかく天台宗の普門寺（兵庫県・姫路）藤本恵祐住職と沖縄県護国神社の伊藤陽夫宮司が対面されましたので、仏教と神道について何かお話を賜れればと存じます。

伊藤：もともと聖徳太子の時代（６世紀後半）に仏教が伝来してはじめて、我が国にかんながら（惟神）の道という生活原理―神道があるということが浮き彫りにされるのですが、その後本地垂迹説（ほんちすいじゃくせつ）などが生まれ、これまで神道と仏教は共生しつづけてきました。

藤本：神様も仏様も同じだと思うのです。けれどそうした崇高な存在に気がついていくまでに、ことわり、というか原理というか、法を説かないと理解できない方たちもおられます。そのようなときは仏の教えがとても必要になります。

伊藤：おっしゃる通りです。神道には教典も教義もありませんからね。そして神道には感謝と願いの祝詞はあっても、供養と悟りに関する導きがないのです。魂を供養するという概念がありません。お亡くなりになった方を神として拝むのです。

藤本：おもしろいですね。けれども六根清浄があるではないですか。

伊藤：これは修験道（しゅげんどう）になってからの言葉で六根というのはやはり仏教用語だとおもいます。

藤本：それでは神道では魂や霊の救いはどのような扱いになっていのでしょうか。

伊藤：神道では罪汚れを祓うという神事はあっても供養という神事はないのです。たとえば鏡は磨くことができる。汚れたらきれいにすることができるという考えなのです。神道では人の本質は清明正直であるというところからはじまっています。原罪はありません。ところがその鏡が曲がっていたり、ひびがあったりしたらどうなのか。そのような時は救いが必要なはずです。そこで哲学や宗教がいるわけです。聖徳太子の時代にはどうしてもそれが必要になった。この時代からいわゆる「思想」がうまれるのです。ちょうど普門寺さんは聖徳太子の時代にご創建のようですね。

藤本：日本の風土は自然がやさしいですから、人々は汚いことを考えなくても平和にすごせたのでしょうね。けれどもだんだん、・・・世の混乱と共に人間の苦悩も複雑になって・・・。

伊藤：たとえば今流行の「千の風になって」は仏教ではどのようにとらえておられますか。

藤本：仏教教理では端々いろいろ問題があるかもしれませんが、私、個人としてはあの通りではないかと。

伊藤：神道でも神学上の問題はありますが、私も個人的に歌詞の意味はよくわかります。私どもは護国神社で慰霊が主であるわけでありますから、仏教のもつ供養の面、仏の教えをとりいれた信仰も必要だと考えています。

藤本：私どものお寺も、元々その地の方々が自然災害から免れるようにと勧請（かんじょう）されたゆかりのある権現（ごんげん）さまをそのままお祭りしています。2月11日建国記念の日に、仏教の儀式、涅槃会（ねはんえ）と神道のお祭りをするんですよ。

伊藤：天台宗は国家護持の教えがありますから神道との接点は多いことでしょう。これをご縁に色々お教え願えると幸いです。

■ 日本人は自然を神のいのちとして畏怖（いふ）し、つつしむこころや、救いをもたらす仏の慈悲のこころを尽くしてきた民族なのですね。短い時間でしたが、とても興味深くうかがいました。ありがとうございました。（文責・編集部）

■ 平成20年3月２日　夙川の伊藤宅にて

硫黄島からのみたま石

平成二十年二月十三日、日本遺族会創立六十周年記念で硫黄島にて慰霊祭が行われた。

沖縄県遺族連合会会長の仲宗根義尚氏（当神社監事）が参列し、その際に持ち帰った現地の石を当神社に奉納頂いた。硫黄島は昭和二十年二月十六日から一カ月以上に及ぶ持久戦を展開し、小笠原兵団長栗林中将の指揮により米軍部隊に多大の損害を与えたがほとんどは玉砕した。戦没者は約一万九千九百人でそのうち沖縄の出身者は百十九人とされている。

現在遺骨収集は遺族以外は行えなく島に渡るには自衛隊の飛行機でしかない、従って遺族は今も遺骨はないままの状態で御霊を慰めている。

仲宗根氏は「私の父、兄も戦死しているが遺骨はなく、亡くなった地の石をお墓に納めている。硫黄島で戦死した遺族にはその石ですら手元にない。せめて一欠片でもと持ち帰ってきた。ご希望の遺族にお頒ちしたい。」

沖縄県遺族連合会
会長 仲宗根義尚 氏

また、「沖縄県遺族連合会は当時一万七千いた会員も高齢化により現在は四千人を切る状態。日本遺族会は、遺族活動を英霊顕彰のため未来永劫続ける方針であり今後如何にして会員を増強するか大且つ緊急な課題である。」さらに、「護国神社は戦没者をお祀りしていて、いわば遺族のお墓ともいえる。慰霊奉賛も推進していきたい。今こそ方針を打ち出す時期」と語ってくれた。

＊硫黄島の石授与に関するお問い合わせは、沖縄県護国神社
098―857―2798
担当：加治まで。

第28代沖縄県知事 島田叡を称え高校の同窓会が顕彰碑を建立

兵庫県出身で終戦前最後の知事島田叡氏の母校である兵庫県立兵庫高校の創立一〇〇周年を迎えるにあたり記念事業として摩文仁が丘の「島守の塔」の前に小型の顕彰碑を献納することになった。

当神社の伊藤宮司が同窓会四四陽会の一員で、発起人として関与しており予定されている六月二十八日の除幕式には当神社神職が奉仕することになっている。

ご案内 来る十月二十三日 第五十回秋季例大祭

昭和三十四年に第一回春季例大祭を斎行し今年で五十回目の節目の年を迎えることとなりました。

秋の大祭には記念祝賀行事も企画しておりますので、春の大祭にもまして皆様の協力のもとさらに盛大な大祭が期待されます。お誘い合わせのうえご参集下さい。お待ち申し上げております。

編集後記

この度社報「うむい」のミニ版として誕生しました「うむい小（うむいぐぁ）」いかがでしたでしょうか？

大祭以外の神社の行事や出張祭典などご紹介を兼ねて掲載いたしました。神社をより身近に感じて頂けましたら幸いです。他にもお宮参り・車のお祓い・家内安全・厄祓い・商売繁盛・社運隆昌等ご祈願また神前挙式も受付けておりますのでお気軽にお電話下さい。

発行　平成二十年四月二十三日
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇―〇〇二六
沖縄県那覇市奥武山四十四番地
TEL098―857―2798
FAX098―857―7917
編集担当　秋永万岐
印刷所　㈱うるま印刷

人事異動 辞令

渡辺尚武
沖縄県護国神社の禰宜に任ずる
平成二十年四月一日

秋永万岐
沖縄県護国神社の権禰宜に任ずる
平成二十年四月一日

島仲　彌
沖縄県護国神社の権禰宜を解く
平成二十年三月三十一日
沖縄県護国神社の嘱託に任ずる
平成二十年四月一日